

普及現地情報

発信年月日：令和元年(2019年)8月7日
所属名：湖北農産普及課
番号：G19013
部門分類：110(麦)
発信者名：新谷、成相、田中、川村

多収・良品質を目指した麦茶用大麦の栽培研修会を開催

7月17～29日に大麦の生産拡大と品質向上を図るため、JA北びわこ管内で栽培研修会が4回開催され、計79名の生産者が出席されました。当課からはR元年産の生育状況とR2年産大麦栽培のポイントについて説明しました。

JA北びわこ管内では、麦茶用として大麦「ファイバースノウ」の作付けが推進されており、R元年産では旧湖北町を中心とした約400haで栽培が行われ、R2年産からは管内全域の約700haで大麦に転換される予定となっています。

研修会では、JAの担当者から、R元年産の荷受数量や品質分析結果の紹介、生産履歴の分析結果について報告がありました。

当課からは、排水対策の徹底といった基本的な栽培技術に加え、管内の多くの生産者がこれまでは小麦を栽培されており、大麦の栽培経験が浅いという状況を踏まえ、ファイバースノウは赤かび病に弱く2回防除が必要なことや、麦茶用途に求められるタンパク質含量は小麦より高く、実肥の施用が重要であることなどを中心に説明しました。

今後も、現地指導や研修会を通じて、良品質麦茶用大麦安定生産技術の習得に向けた広域的な支援を実施していきます。



研修会の様子
(7月26日 自立農家の集い)



管内で生産された大麦を
使用した麦茶